

公認会計士法友会会報

公認会計士法友会

第27号

令和2年1月1日

平成30年度定期総会・研修会を開催 (P.8)



令和元年度公認会計士試験合格祝賀会及び会員研修会のお知らせ

(日時) 令和2年1月25日(土)

会員研修会 受付 15:00 講演 15:30

場所:ポアソナード・タワー25階 B会議室

演題:「会計士を含む士業メンバーに求められる令和時代の挑戦」

講師:山本哲朗氏

(株式会社アンダーナ代表取締役社長)

合格祝賀会 受付 17:30 開宴 18:00

法政大学 ポアソナード・タワー26階 スカイホール

(会費)公認会計士 10,000円

試験合格者及び会計士補 5,000円

※該金額のうち5,000円は令和元年度会費に充当いたします。
出欠席のご連絡は、送付しております往復ハガキもしくはメールにてお願いいたします。

目次

| | | | |
|---------------------|---|-------------------|----|
| 会長挨拶 | 2 | 平成30年度定期総会報告・決議概要 | 8 |
| 平成30年度公認会計士試験合格者の近況 | 4 | 会費等納入の御礼 | 9 |
| 雑感 | 5 | 各種参加報告 | 10 |
| 「法政士業の会」便り | 6 | 年度会費及び寄付金のご協力をお願い | 12 |
| 校友会だより | 7 | 編集後記 | 12 |
| 「令和元年簿記チャンピオン大会開催」 | 7 | | |

同封物:会報、郵便口座振替用紙

会長挨拶

会長 太田 莊一(昭和52年卒)



公認会計士法友会の会員の皆様、新年のご祝詞を申し上げます。各位の各業界分野でのご活躍をお慶び申し上げます。

昨年は新しい令和の時代を迎えましたが、一方、気象災害等も多く発生しました。皆様には被害等はありませんでしたでしょうか。2020年が皆様にとりまして明るく輝かしい年でありますことを祈念申し上げます。

会員の皆様には、いつも多大なるご支援とご賛同をいただき、誠にありがとうございます。毎年決まったように貴重な浄財をご寄附いただいている会員、また、総会、祝賀会等の行事には必ずご出席いただいている会員諸氏には、誠に感謝に堪えません。本当にありがとうございます。

特に、今回、会員の皆様にご協力をお願いいたしました「校友会寄付金」に対しましては、たくさんの方々の皆様よりご賛同をいただき、ご芳志を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げますとともに、今後ともなにとぞよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

おかげ様をもちまして、法政大学の内外における公認会計士法友会のプレゼンスを更に高めることができますのも、会員の皆様方のご尽力とご協力の賜物であると、役員一同を代表いたしまして深く感謝申し上げます。

さて、今年度は、当会役員の改選期(2年毎)にあたり、別途ご報告のとおり、現正副会長及び監事、正副事務局長、そして幹事は全員留任とさせていただきます、新たに若手の副会長と幹事を登用いたしました。今後とも若手役員への登用を推進していく方針でありますので、若手会員の皆さんには、是非とも積極的に活動に参画していただきたく、よろしくご協力いたします。

現役員体制で5年目に入りましたが、法友会の目的である『会員の相互交流・親睦を深めるとともに、母校の発展と後進の育成に貢献する』に基づき、新しい若い世代の会員への橋渡し役になるべく、河西事務局長はじめとする役員の方々の精力的なご対応とご協力を受けながら、なんとか務めさせていただいております。

今後とも引き続き、会員の皆様方のご指導ご鞭撻のほど、なにとぞお願い申し上げます。

今回は、最近の法友会活動についてのご報告を中心に、今後の活動方針を述べさせていただきたいと思っております。

【『法政大学校友会』の活動への参画と協力について】

4年前に法政大学の卒業生団体の組織である一般社団法人『法政大学校友会』が発足し、我が公認会計士法友会も

その有力なパートナー組織として、和食克雄顧問が『法政大学校友会』の「理事」に、矢部 豊副会長が「監事」に、飯塚昇副会長と石川正敏副会長が「代表議員」として、校友会の運営や活動に参画し、ご活躍されております。

『法政大学校友会』は、法政大学の発展に寄与することを目的に、「法政のネットワーク創り」と「全ての世代が集い繋がる」を強化し、校友が一体となった活力ある組織を形成し、母校・卒業生・社会への貢献を目指して活動しております。(校友会の活動報告については、後掲の矢部会員からの記事「校友会だより」をご参照ください。)

現在、2014年3月以降の新卒業生は、卒業時に校友会終身会費を納入して校友会正会員に登録され、会費は校友会活動費に充てられ一部は将来の卒業生会館の資金のために積立てられています。そこで、それ以前の卒業生にも、所属する各パートナー組織を通じて校友会の終身正会員となるための資金を拠出していただき終身正会員登録を推進する活動が各パートナー組織において積極的に行われています。(各パートナー組織は登録正会員40名に1名の割合で代表議員を選出することができます。)

公認会計士法友会としても、「母校の発展と後進の育成」に寄与するという目的に沿うものとして、現在までに、84名の終身正会員を登録し、代表議員2名の選出枠を有しておりますが、本年度において、これを更に拡大することを目指して、法友会の『法政大学校友会』活動への協力と運営への積極的な参画についてご理解をいただき、広く会員の皆様方に資金面でのご支援をお願い申し上げたところ、たいへん多くの会員有志の皆様方よりご賛同をいただくことができました。(会報寄稿日現在のご賛同寄付者のご芳名につきましては、後掲記事に掲載させていただきます。)ここに重ねて厚く御礼申し上げます。

今後、これを原資にいたしまして、校友会の終身正会員登録の追加申請を行ってまいりますので、会員諸氏にはご協力のほどなにとぞよろしくお願いいたします。

さらに、2014年3月以降卒業の若手会員におかれましては、卒業と同時に法政大学校友会の終身登録会員となり、卒業後5年間は校友会の「年度同期会」に登録されていましたが、2019年4月より、5年を経過した2013年度の卒業生から、所属するパートナー組織(公認会計士法友会)に所属変更することができることとなりますので、該当する若手会員各位において所属変更の手続きを速やかに進めていただくことで、これから毎年、若手の終身正会員が増加していくこととなります。

これをステップにして、今年度中には100名を超える規模の終身会員登録を目指しておりますので、会員各位にはおかれましては、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【「法政士業の会」の活動について】

2019年11月16日に徳島市で開催されました法政大学校友会主催の「第29回全国卒業生の集い」徳島大会」には、法

友会からは小職と矢部副会長に加えて、地元徳島市で開業されている福山正啓会員(1999年経営卒)に参加いただきました。今回は大会実施に併せて、「法政士業の会」のメンバー有志による一般市民を対象にした「専門士業による無料相談会」が開催され、福山会員には税務を中心にした相談案件に応じていただきました。ご対応に深く御礼申し上げます。

また、この大会行事には、毎年のように地区同窓会の代表として参加されておられる尾町雅文会員(1976年卒宮城県在住)や北村敏雄会員(1972年卒新潟県在住)とも親交を深めることができました。(写真左から、福山会員、北村会員、尾町会員、小職)



2020年は栃木大会ということで宇都宮市で開催されます。皆様、是非ともご参加いただき、全国の法友会会員との懇親の場としたいと思います。

また、最近では、若手中心のビジネス交流会の開催や、若手会員による本学付属校での内部進学者ガイダンスでの各士業の紹介等、より一層の活動を拡充しており、公認会計士法友会としても積極的にこれらに参画しておりますので、会員の皆様には、これらの活動に是非ともご参加いただきますようお願い申し上げます。(詳細については、後掲の記事ご参照。また、法政大学のHPから「卒業生の方へ」の校友会にアクセスして紹介記事、法政フォトジャーナルもご覧ください。)

【「奨学支援金」の会員寄付の拡充について】

法友会として、今後、特に注力していきたい活動といたしましては、会員の皆様からのご寄付浄財をいかにして拡充していくかという課題に対する対応です。

法友会活動は会員の皆様からの会費・寄付金の浄財により成り立っています。昨今、会員の高齢化とご寄付賛助者数の減少により、当会の財政収入にも少なからず影響が出ております。

一方、活動の範囲はますます拡大しており、特に、3年前に創設し給付を継続しております本学学生に対する公認会計士試験受験のための「奨学支援金制度」につきましては、嬉しいことに、その成果が年々目に見えて来ております(下記「概要と実績」参照。)

今年も、現役合格者のうちの4名の方は、昨年度までにこ

の奨学支援金の対象者として給付を受け、それをステップにして勉強され、今回見事に合格されたとの嬉しいニュースが入ってきております。

法友会としては、これを継続し、さらに充実したものにしていきたいと考えております。このための原資として会員の皆様方からのご寄付浄財が不可欠でありますので、なにとぞご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【法友会「奨学支援金」制度の概要と実績】

- ・給付資格: 毎年11月の学内簿記チャンピオン大会成績優秀者に受給資格証を付与し、短答式受験を条件に用途を専門学校の受講費充当に限定して5万円を給付するもの。
 - ・給付実績: 2016年度2名、2017年度5名、2018年度5名
 - ・受給者の合格実績: 2018年論文式合格2名(2016年度受給者)、2019年論文式合格4名(2017年度受給者)
- ということで、受給した学生の合格率は非常に高い結果が出ています。

【最後に】

昨今、経済界は新卒者の就職内定率が過去最高の状況が続いており、そのせいもあってか、公認会計士試験を受験する学生数にも影響しています。

また、監査法人の人手不足も大変な状況のようで、若手会計士の監査現場での業務環境の改善が喫緊の課題になっているようです。

今年も全国で1,300名を超える試験合格者が輩出され、当法友会にも多くの新しい仲間が増えました。(12月1日現在判明分21名のうち現役学生合格者15名)

2020年1月25日(土)には、ボワソナード・タワー スカイホールに於いて、当会主催による法政大学公認会計士試験合格祝賀会を開催いたします。

是非とも多数の会員の皆様のご出席され、合格者の門出をお祝いし、激励し、また多くの先輩、同輩、後輩との交流懇親をはかられることを期待いたします。

法政大学からさらに多くの公認会計士を輩出するためにも、また、将来のある若い皆さんが活き活きとして集い結ぶ業界・魅力ある士業となるよう、法友会としてもまだまだやるべきことはたくさんあります。会員の皆様、そして合格者の皆様の今後益々の御健勝をお祈りしまして、エールを送ります。

「フー！！フー！！法政、ガンバレ！！ガンバレ！！合格者」

平成30年度公認会計士試験合格者の近況

合格者の近況を自ら報告していただくコーナーです。今回は1名の方からの近況報告です。

●山口市緒(平成30年卒)

法友会の皆様、いつもお世話になっております。山口市緒と申します。私は、平成30年に経済学部経済学科を卒業し、同年に公認会計士試験に合格いたしました。現在は、有限責任監査法人トーマツに勤めております。

2月に入社してまもなく1年がたちますが、この1年間はあっという間に過ぎてしまいました。去年の合格発表の日に、金融庁で自分の名前を見つけたときは、嬉しくて、安心して、会計士としてやっとそのスタートラインに立てたことがとても嬉しかったことを今でも覚えています。受験時代は何度も勉強をやめたいと思いましたが、合格発表で自分の名前を見つけたときは、やっぱりやめなくてよかったと心から思いました。この試験は、自分一人では絶対に乗り越えられなかったです。いつも機嫌よくくれたわけではなかった自分を許してくれた家族と、壁にぶつかるたびに自分のことのように心配してくれた友達、最後の最後まで一緒に戦ってくれた予備校の先生・仲間と環境に支えられてこそ合格できるのだと思います。と同時に、真剣な人には、ちゃんと支えてくれる人がいることもこの試験で学びました。あの時の感動と感謝の思いがある限り、どんな繁忙期も頑張れるだろうと思います。

就職した今でも、周りの人の力を借りて、会計士として働いております。監査法人では、主にメディア系のクライアントを担当しております。受験時代は、一言に「監査証拠を集める」とか、「監査手続を行う」と言っていましたが、実際の監査では、本当に監査証拠や監査手続が正しいか、十分か、というところから迷うこともあり、監査論のテキストに書いてあったことは、ほんの一例だったのだなと感じております。実際の監査は、地道で、細かい作業も多いですが、最後に、出来上がった有価証券報告書を見たときはとても感動しました。また監査業務と並行して、リクルートの仕事にも従事しております。リクルートは、自分と近い年次の人たちと働ける貴重な機会であり、監査とはまた違った楽しさを感じております。若手の意見が一番反映される仕事であり、やりがいがある一方、これから公認会計士となる人たちの進路に関わってしまう責任も大きいため、いつもほどよい緊張感があります。

人生で初めての社会人となり、慣れないことや知らなかったことも多かったですが、その分できるようになったこともとても多いです。はじめは、戸惑ったり、悩んだりしても、同じように迷いながら働いている同期や、先輩方を見ると私ももっと頑張ろうと思います。

休日は、大学の友達や同期と遊ぶことが多いです。大きく変わったと思うことは、仕事の話をするようになったことです。私は、大学の友達からは、一年遅れで就職をしたため、大学の友達はよき社会人の先輩です。大学の友達とは、卒業した今でも励まし合い、応援し合える関係で、すてきなと改めて感じております。また、他法人の友達や、同期はいろいろな経験をしてきた人たちの集まりですので、仕事の話をするとても勉強になります。同期とは、春にはお花見をしたり、夏には旅行に行ったりします。また、補習所の考査前にはみんなで勉強するおかげで、さぼらず、赤点を取らずになんとかJ2になれそうです。遊ぶときは本気で遊び、勉強するときは協力して、働くときは必死に、社会人に必要なメリハリの付け方も同期に教えてもらいました。

最後になりますが、先日は平成30年公認会計士合格祝賀会にお招きいただき、誠にありがとうございました。この1年間、たくさんの先輩方に支えられ、助けていただきながら、仕事の難しさを知り、楽しさが分かってきました。まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。



雑感

川崎 定昭 (昭和54年卒)

昭和54年卒の川崎と申します。
法友会の若い会計士先生にとっては「誰?」、となるでしょうね。
そこで、まずは自己紹介から始めます。

自己紹介

私は、経営学部経営学科を昭和54年に卒業、学生時代は経営学部の附属機関であった「公認会計士講座」にて勉強をさせていただきました。その頃お世話になった先輩が、現在の法友会会長である太田先輩、前事務局長の飯塚先輩です。今回は、太田先輩のご命令(?)により投稿させていただきますこととなりました。お見知り置き下さい。

現在、私は日本大学経済学部および大学院にて非常勤講師を勤めております。7、8年経ち、やっとクラスから毎年会計士の合格者が数名出るまでになりました。また、「日本簿記学会」の会員として「簿記教育研究部会」にも所属しております。ここまでお話ししますと「学者ですか?」「大学院に行かれたのですか?」などの疑問が湧いてくると思いますが、そんなことはありません。若い頃は監査法人勤めをしていた一会計士です。博士の資格も、修士の資格もなく、「学士」に過ぎません。では、何故「学者」みたいな生活を送っているのか、これからその訳をお話ししましょう。

税理士試験、試験委員を拝命

以前は、皆さんと同じく法定監査に日々従事していました。でも、現在ほど残業、残業の毎日ではなく、アフターファイブは十分な自由時間がありました。そこで、夜に会合がある日本公認会計士協会東京会の税務委員会に参加したのが始まりで、研修出版委員会、さらに研修委員会(研修出版委員会から分離し、独立した委員会)など、気が付けば約10年近く委員会の活動にのめり込んでいました。仕事の仲間たちや大学の同級生とは異なる方々との交流はとても刺激があり、何よりも当時最先端な学問分野(連結納税制度、ファイナンス理論など)に接することができたこと、また共著のかたちで数冊の出版物を発行したことが今では楽しい思い出です。

研修委員会にて委員長に就任している時、かつての事務所の後輩を通じ税理士試験試験委員の話が舞い込み、平成19年から21年の3年間試験委員を拝命いたしました。持つべきは「後輩」ですね。東京会の役員の推薦もありトントン拍子で決まった感があります。

財務省の赤じゅうたんを歩く

国税庁は財務省の5階にあり、正門の守衛さんに「入館証」を示し、黒塗りの車がいつも数台止まっている中庭を通り建物の中に入っていきます。エレベーターで5階に上がり、指定された会議室に向かいます。廊下は赤じゅうたんがひかれており、なんとなく雲の上を歩いているような感覚を覚えました。また擦れ違う人は、すべてキャリア組のエリートに

見え、自身凡人であることを強く実感させられるようでした。
簿記論と財務諸表論の試験委員は同時に集められ、数回にわたる議論の上試験問題が作成されます。ここでは東京会での各種委員会での経験が役立ちました。一つの論点についてみんなで議論を行うにあたり消極的な態度では相手にされません。ある面で、相手をリスペクトしながらも相手の意見に対して積極的に反論するようであればなりません。最初のうちは、的外れの反論ばかりでしたが、慣れてくればそれなりに論理明快な反論(?)となるものですね。相手は自分の意見に対して自信がないので他者の意見を聞きたがっていると考えれば良いのです(一種の「開き直り」)。この会議で知ったことは、大学の教授といえども「実務」に関しては無知であり、機会があれば実務家の話を聞きたいと思っていることです。

大学教授との酒盛り

会議の後は、ほとんど毎回酒席となりました。簿記学会での会合も同じですが、大学の先生方にとって、酒の席も研究の一環なのでしょう。私も酒の席は嫌いではないので毎回参加させていただきました。その席で、日本大学教授(現、名誉教授)の今福先生から非常勤講師へのお誘いがありました。今福先生は穏健な人柄で、私の拙い実務での経験話に耳を傾けていただき、「川崎さんのお話を若い学生たちに聞かせたいので大学に来ませんか」と誘われた次第です。また、立教大学教授(現、名誉教授)の倉田先生、および同大学教授(当時は、滋賀大学准教授)の山田先生には、「簿記学会」入会にあたりご推薦をいただきました。

このように諸先生方のご尽力により、法定監査の現役引退後の現在、「学者まがい」の生活を送らせていただいております。

今後の夢

私、本年の日本簿記学会全国大会(中央大学にて8月に開催された)において自由論題として「実務の視点からの高大連携教育カリキュラムの策定(要望案)」を発表させていただきました。自身商業高校出身(写真は、大阪ビジネスフロンティアへの統合により廃校となった市岡商業高等学校の正門前)のため、高大連携簿記教育に興味があり、今後後輩のため商業高校と大学との連携した簿記教育の研究を続け、少しでも簿記発展に貢献できればと考えております。



「法政士業の会」便り

山田 努(昭和59年卒)

東京六大学野球秋季リーグ戦は8勝2敗、勝ち点4の2位で終わりました。惜しかったですね。昨秋に続く優勝は成りませんが、2020年は神宮球場だけでなく東京オリンピックなどでも法政関係者が活躍することを願っています。

さて、本題の「法政士業の会」の活動状況について、前号(2019年7月)に続き私からご報告いたします。

第3回定時総会開催(2019年11月23日)

ついに取り壊しが始まった55年館・58年館の南側(靖国神社側)に新築され2019年4月から利用が開始された新校舎「大内山校舎」のY502教室において、法政士業の会第3回定時総会を開催しました。ほとんどの出席者が新校舎に入るのは初めてであり、皆さん興味津々で新校舎内を探索されていました。

15時から定時総会が始まり、司会・議長などの総会運営は弁護士、決算報告は税理士、監査報告は公認会計士というまさしくその道のプロが担当し、不測の事態が起きても大丈夫という安心感があります。各委員会の担当理事から2018年度活動報告・2019年度活動計画の説明が行われました。なお、事業企画委員会は第3期から校友会連携担当委員会と大学連携担当委員会に再編されました。

(校友会連携担当委員会)

法政士業の会の活動の中でも最も注力している「お困りごと相談会」を担当しています。今年は第2回目となる相談会を徳島で開催しましたが、校友向けにとどまらず法政関係者以外の一般の方々の相談にも対応し、地元・徳島新聞に記事として取り上げられるなど法政士業の会のプレゼンスを高めています。

(大学連携担当委員会)

付属校の法政大学進学内定者向けの専門資格取得に関する講義などの活動を継続しています。また、大学(募金協力)、現役学生、後援会などに対する活動をどのように展開できるのかの検討も当委員会の役割となりました。

(研修委員会)

今回の徳島大会において法政会計人会の発地副会長(法政士業の会 理事)によるミニセミナー「相続税の基礎 ～相続税が心配ですか～」、第3回定時総会后に法政司法書士会の野中会長(法政士業の会 副会長)による「成年後見制度について」の講演を企画実施しました。また、各士業団体主催の研修会講演会に相互乗り入れできるようにしています。

(厚生委員会)

2019年7月に第2回ビジネス交流会を実施して、飲食・歓談などで会員相互の交流を深め、ビジネスネットワークの場を提供しています。公認会計士法友会からは小場さんが担当委員として参加していますので、個人で開業されている方や組織内会計士の方などには特にお勧めですので、ご興味のある方は遠慮なくご参加ください。

(広報委員会)

法政士業の会のホームページの運営管理を行っています(<https://hoseishigyo.net/>)。

法政士業の会の活動の詳細をご覧になりたい方は、こちらにアクセスください。

また、2019年7月8日発売の週刊ダイヤモンドの特集「主要大学OBネットワーク解剖」の中に「明治・法政 士業OB対決」というコラム記事が掲載されました。ダイヤモンドからの取材を受けての記事ではあるものの、専門士業にあまり関係ない内容(どちらの大学のタワーが高いかなど)だったのは少し残念でしたが、士業の会の認知度アップにはつながったかと思いません。

18時から場所を富士見ゲート3階「つどひ」に移し懇親会を開催しました。着席ビュッフェ形式で8つのテーブルに各士業団体の会員が分散するようにくじ引きで席を決めました。大学からは増田常務理事・小澤常務理事をはじめ各連携室部長など総勢5名、校友会からは佐々木会長、パートナー組織では不動産鑑定士橙法会と連合している建設・不動産橙法会の柳会長という来賓をお迎えし、各士業団体の会員紹介など和やかな雰囲気の中で進行しました。また、スポホウの最新号も配布され、宇草君(広島2位)、福田君(千葉ロッテ5位)がドラフト指名された祝福記事も話題となっていました。恒例の応援団演武にはチアは都合により来れませんでした。リーダー一部5名による第一応援歌「若き日の誇り」「チャンスHOSEI」で盛り上がり最後は全員で校歌を斉唱いたしました。

2016年11月に設立された法政士業の会も早いもので3年が経ち、その活動は大学・校友会の中でも認知度が高まってきており、外部からの期待の大きさを実感した一日でした。

校友会だより

法政大学校友会監事 矢部豊(昭和41年卒)

一般社団法人法政大学校友会の三大イベントの全国卒業生の集い徳島大会も終了し、オール法政新年を祝う会も目前となっています。又、役員の改選期でもあり、法友会から選出される監事、代表議員の人選も進んでいます。

一般社団としてスタートしてから校友会の活動も軌道に乗り始め、いよいよ卒業年度による年度同期会員約6千人のパートナー組織への移籍が始まりましたが、校友会の将来を決める大事な事業で、大学後援会と協力して推進していきます。

一方、既卒業生の終身会員は10月末で44,072名となり、本年度の入会者は138名となりましたが、一層の努力が望まれています。更に代表議員を選出できる正会員40名以上のパートナー組織は79となり、公認会計士法友会も正会員84名で2人の代表議員を選出しています。40名以下のパートナー組織が21、個人会員も約7千人となり、海外団体も12カ国16拠点となりました。更なる拡大が望まれています。理事を選出する士業の会の主要メンバーとしても校友会の活動に積極的に参加することが望まれています。

「令和元年簿記チャンピオン大会開催」

事務局より

毎年、在校生を対象にした簿記チャンピオン大会を行っており、今年は11月9日の土曜日夕方に開催されました。この大会は、在校生の会計スキルを磨くために高度会計人育成センターが主催して毎年行われているイベントです。大学入学後にセンターが簿記の基礎を教えるカリキュラムを提供して、その成果として秋に大会を開催し当日夕方に懇親会と成績優秀者の表彰式を執り行うものです。

参加者は市ヶ谷本校舎の経営学部が中心になっていますが、多摩校舎の経済学部の生徒もかなり参加していました。ここに至るまでの授業は専門学校TACの協力の下で優秀な講師を派遣してもらい、市ヶ谷校舎と多摩校舎でそれぞれ同じカリキュラムが春から展開されてきており、学生と講師は信頼関係の中でスキルアップをしてきているようでした。

懇親会では既に公認会計士試験にも挑戦中の三年生、四年生も顔を出して後輩の健闘を労って、色々と歓談をして和やかな雰囲気の中で時間が過ぎて行きました。当会からは、毎回、マドレーヌや焼き菓子の差し入れを行っています。また、太田会長をはじめ数人が参加して、学生に会計士の魅力を伝え、一人でも多くの方が会計士を目指してもらうように動機づけを行いました。

この懇親会では、成績優秀者の上位6名に対して、当会より奨学支援金給付証(一律5万円)の授与を行っています。公認会計士試験短答式受験を申し込み、この給付証と必要書類を提出すると、5万円を学生に渡すというものです。専門学校費用の一部に充ててもらいたいことを想定しています。

今回で4回目となりますが、近年は受給した学生からの試験合格者が増加する傾向にあり、我々としても大変うれしく思っています。

| 年度 | 資格付与者 | 受給人数 | 短答式合格者 | 最終合格者 |
|--------|-------|------|--------|-------|
| 2016年度 | 6名 | 2名 | 2名 | 2名 ※1 |
| 2017年度 | 6名 | 5名 | 4名 | ※2 |
| 2018年度 | 7名 | 5名 | ※3 | |
| 2019年度 | 6名 | | | |

※1 2016年度に受給した2名は、2018年の最終論文式合格。

※2 2017年度に受給した5名のうち4名が短答式合格(1名が5月受験予定)で2019年論文式受験予定。

※3 2018年度受給者は現在のところ5名で、5月の短答式受験

※対象者は6名でしたが、成績発表まで残っていた人は5名でした。この中からも、来年、公認会計士試験合格者が出ることを期待します。



平成30年度定期総会報告・決議報告

事務局より

令和元年7月9日(火)に平成30年度総会を開催しました。概要を報告いたします。

1.会員数の推移

過去7年間の会員数は以下の通りですが、公認会計士法友会に参加の意思を表示しない・参加しないと意思を表示した人は累計で115名になっています。若手会員の活動をより活性化して周知し、参加を促す必要があります。

2.後進の育成のための高度会計人育成センターとの連携
「令和元年簿記チャンピオン大会開催」の記事をご覧ください。

| H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 657 | 667 | 683 | 699 | 720 | 715 | 740人 |

3.会費納入状況について

多くの会員の皆様から、年度会費、年度寄付金のご協力をいただきました。誠にありがとうございます。

| (単位:千円) | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 会費・寄付金総額 | 2,614 | 2,340 | 2,411 | 2,306 | 2,253 |
| 終身会員登録会費 | — | △1,305 | — | — | — |
| 差引 | 2,614 | 1,035 | 2,411 | 2,306 | 2,253 |
| 支出 | 2,207 | 2,163 | 2,336 | 2,043 | 2,069 |
| 収支差 | 407 | △1,128 | 85 | 263 | 184 |

校友会の終身会員登録のために、特別に寄付をお願いした影響を除くと、年平均2,000千円の会費等を納入いただいています。しかし、会員数の増加に伴う会報等の印刷・発送コストの増加等もあり、財政は厳しい状態となっています。会費等については、通常会報の中で納入のお願いをさせていただいておりますが、思うように伸びておりません。引き続き、より多くの会員の方からの会費の納入と経費削減を合わせて行い、収支差を改善する必要があると考えています。

4.決算・予算概要

①支出実績

総会・祝賀会開催費用については、昨年実績並みで予算を作成しましたが、参加人数の増減やケータリングの運営主体が変更になったことにより、予算比、実績比とも減少しました。

校友会の終身会員追加登録40名に向けた取り組みを行う予定でしたが、実施できませんでした。奨学支援金は、本年の支給申請が5名だったことによるものです。

②予算概要

校友会終身会員登録者数の目標を10名としました。なお、会報発行時点で10名登録のめどがついています。また、奨学支援金は、「高度会計人育成センター」との連携により、簿記チャンピオン大会の成績優秀者に支払うもので、支給実績を勘案し、8名分を計上しました。

| 決算・予算概要(単位:千円) | H30年度予算 | H30年度実績 | R1年度予算 |
|----------------|---------|---------|--------|
| 会費・寄付金 | 3,550 | 2,253 | 2,500 |
| 校友会より | 570 | 390 | 450 |
| 収入合計 | 4,120 | 2,643 | 2,950 |
| 総会・祝賀会開催費用 | 1,910 | 1,547 | 1,560 |
| 終身会員登録 | 600 | — | 300 |
| 奨学支援金 | 550 | 250 | 400 |
| その他 | 835 | 662 | 687 |
| 支出合計 | 3,895 | 2,459 | 2,947 |
| 収支差 | 225 | 183 | 3 |
| 前期繰越 | 1,212 | 1,212 | 1,396 |
| 次期繰越 | 1,437 | 1,396 | 1,399 |



また、役員の変更が行われ、下記の通り選任が行われました。

| | | | | |
|-------|--------|----------|----|------------|
| 会 長 | 太田 莊一 | (昭和52年卒) | 留任 | |
| 副会長 | 矢部 豊 | (昭和41年卒) | 留任 | 校友会担当 |
| | 飯塚 昇 | (昭和49年卒) | 留任 | 会員寄附担当 |
| | 石川 正敏 | (昭和58年卒) | 留任 | 祝賀会・総会担当 |
| | 渥美 龍彦 | (昭和58年卒) | 留任 | 会報担当 |
| | 山田 努 | (昭和59年卒) | 留任 | 士業の会担当 |
| | 三浦 太 | (昭和60年卒) | 留任 | 会員親睦担当 |
| | 越智 一成 | (平成9年卒) | 留任 | 若手育成担当 |
| | 大谷 はるみ | (昭和60年卒) | 新任 | 研修担当 |
| | 春山 直輝 | (昭和60年卒) | 新任 | 総務担当 |
| 幹 事 | 森口 輝来 | (平成11年卒) | 留任 | 祝賀会・総会担当補佐 |
| | 佐竹 健二 | (平成12年卒) | 留任 | 会員親睦担当補佐 |
| | 嶋方 拓郎 | (平成12年卒) | 留任 | 若手育成担当補佐 |
| | 鵜藤 葉子 | (平成14年卒) | 留任 | 若手育成担当補佐 |
| | 伊藤 章子 | (平成14年卒) | 留任 | 祝賀会・総会担当補佐 |
| | 川村 敬史 | (平成18年卒) | 留任 | 研修担当補佐 |
| | 宇佐見 浩一 | (平成12年卒) | 新任 | 士業の会担当補佐 |
| 監 事 | 酒井 宏暢 | (昭和57年卒) | 留任 | |
| | 小場 貴之 | (昭和63年卒) | 留任 | |
| 事務局長 | 河西 正之 | (平成元年卒) | 留任 | |
| 副事務局長 | 木村 純一 | (平成11年卒) | 留任 | 事務局長補佐 |

会費等納入の御礼

令和元年度に定期総会に参加いただいた方、会費等を納めていただいた方は以下の通りです。皆様、どうもありがとうございました(令和元年12月9日現在)。

(50音順、敬称略)

令和元年度の定期総会に出席いただいた方は以下の通りです。

| | | | | | |
|--------|--------|-------|--------|-------|-------|
| 渥美 龍彦 | 飯塚 昇 | 石川 正敏 | 伊藤 章子 | 太田 莊一 | 越智 一成 |
| 小野 隆良 | 柿沼 幸二 | 川崎 定昭 | 河西 正之 | 木下 恵嗣 | 木村 純一 |
| 草深 文理 | 小場 貴之 | 酒井 宏暢 | 佐竹 健二 | 西浦 正和 | 春山 直輝 |
| 牧野 智成 | 松原 恭司郎 | 三浦 太 | 矢田堀 浩明 | 矢部 豊 | 山田 努 |
| 吉田 実貴人 | 和食 克雄 | | | | |

会費・寄付を頂いた方は以下の通りです。

| | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--------|--------|
| 飯塚 昇 | 五十嵐 正明 | 石川 正敏 | 伊藤 章子 | 井上 倫哉 | 鵜藤 葉子 |
| 梅村 一彦 | 太田 莊一 | 太田 眞晴 | 大野 厚夫 | 奥 朋 | 柿沼 幸二 |
| 葛西 晋哉 | 金子 祐大 | 河合 三彦 | 河西 正之 | 北村 敏雄 | 君和田 和子 |
| 倉持 直樹 | 黒田 學 | 桑原 正信 | 神田 忠二郎 | 古田土 満 | 小林 保弘 |
| 酒井 宏暢 | 佐藤 志郎 | 島田 幸樹 | 杉本 喜代美 | 鈴木 和郎 | 鈴木 一功 |
| 鈴木 雄飛 | 高木 淳 | 高橋 和司 | 高村 茂 | 遠山 景一 | 豊島 忠夫 |
| 中村 里佳 | 西澤 利雄 | 橋爪 和夫 | 橋爪 宏徳 | 藤田 利弘 | 藤原 明 |
| 本宮 和馬 | 森口 輝来 | 安井 洸治 | 矢部 豊 | 山口 祐一郎 | 山本 成男 |
| 吉川 清司 | 和食 克雄 | | | | |

各種参加報告

不動産鑑定士橙法会

山田努(昭和59年卒)

初めて不動産鑑定士橙法会の行事に参加したのは2015年6月の第14回定期総会懇親会でした。当時は定期総会のご祝儀を持参するなどかしまって懇親会に参加していましたが、その後、法政工業の会が設立され両会の交流が深まり、昨年は不動産鑑定士橙法会の研修会で私が講演をさせていただくなど連携を強め、今ではお互い会費制にして誰でも自由気軽に懇

親会に参加できる雰囲気があります。今年度は2019年6月20日に第18回定期総会講演会(池上貞純氏による講演「ボーダーレス化する金融経済」と懇親会が行われ、当会からは太田会長が出席されました。私は直前に業務多忙となり当日は欠席しましたが、不動産鑑定士の方々にはいつも感謝しています。

経営学部同窓会

太田荘一(昭和52年卒)

梅雨の候の2019年6月22日、経営学部同窓会の総会懇親会に、飯塚副会長(同窓会の監事として出席)と共に出席してまいりました。懇親会は、学生が使う富士見坂校舎地下1階の食堂で、最後は全員肩を組んで校歌斉唱で、暑気払いをしました。岩井昭会長には、大変お世話になっており、いつも神宮球

場での六大学野球の応援にも当会のメンバーをご招待いただいております。
(昨秋は非常に残念でしたが、今春こそ、堂々優勝することを祈って、皆さん是非とも神宮球場に集結してください。)

青学会計人クラブ

飯塚 昇(昭和49年卒)

令和元年7月1日、第38回青学会計人クラブの総会後に行われた懇親会に、小場監事とともに出席しました。租税法を専門領域とする三木学長のご挨拶では、フランスがスタートする源泉徴収制度を話題にされ、また、税制調査委員であったことから青学会計人クラブの会員との関係の深さや、活動への理解を強く感じました。昨年も記載しましたが、青学会計人クラブは、幼稚園・初等部から大学院までの青山学院大学関係の学校で学んだ公認会計士と税理士が会員とのことで、青山学院大学卒がKEYとなっ

ていないことから会員範囲はとて広い特徴的な組織です。今後とも継続して交流を深め、法友会活動のあり方の参考にして行ければと思います。
(左から 法友会・小場監事副会長、青学会計人クラブ・柳下会長、私・飯塚)



専修大会計人会

渥美龍彦(昭和58年卒)

令和元年7月2日(火)、専修大会計人会定期総会後の懇親会が、神田校舎1号館(高層棟)で開催され、三浦副会長と渥美が出席しました。会員の参加を促すべく、昨年より定期総会の開催時刻を18時半からとして講演会を開催せず、懇親会開始を19時10分としたそうです。吉田会長はご挨拶の中で、組織拡大に向けての取り組みについての説明されていました。今回は、来賓30名、会員30名の計60名の出席者全員による

じゃんけん大会が行われ、わが三浦副会長は景品を手に入れました。



公認会計士白門会

河西正之(平成元年卒)

令和元年7月5日 中央大学の会計士の集まりである公認会計士白門会の懇親会に太田会長と出席してまいりました。2025年に向けた大学としての取り組みの紹介などがありましたが、木下徳明会員から聞いた太田哲三先生や井上達夫先生

の大学教授時代の話がとても印象的で、他の話が吹っ飛んでしまいました。両先生の名前は本でしか知りませんので、大学教授時代にどんな先生であったか、とか、授業の様子はどうか、ととても興味深い話でした。

明治大学公認会計士会

河西正之(平成元年卒)

令和元年7月18日に明治大学駿河台キャンパス リバティタワー23階 岸本辰雄ホールで懇親会が開催され、山田副会長と参加してきました。大学への貢献、明士会という土業の会を通じて公友会や大学への貢献をしていきたいとのことでした。明治

大学公認会計士会は大学の財務担当常勤理事を会員から選出しています。また、会計士試験合格者100名を目指すとのことでした。校友会との連携、合格者数の増加はとこでも課題となっているようです。

日本大学桜門会計人会

飯塚 昇(昭和49年卒)

令和元年7月28日、日本大学桜門会計人会の総会後に行われた懇親会に、太田会長とともに出席しました。日本大学校友会本部・江黒事務局長の来賓あいさつでは、校友会員が110万人で、半数の52万人に会報を発送しているとの話があり、自分が学生の頃はマンモス大学と言われていたと記憶していますが、卒業生が法政の約3倍になるかとびっくりした

と同時に、大学及び校友会の運営の難しさも相当と感じた次第です。さて、懇親会会場は市ヶ谷にある日本大学桜門会館でしたが、慶応は別格として、明治、中央、専修、青学など、交流のある他校は記念館などの施設を持っており、校友会が目指している校友会館の建設を、是非、実現してほしいものです。

法政会計人会

太田荘一(昭和52年卒)

令和元年9月5日にポアソナードタワー25Fで行われた法政会計人会の定時総会懇親会に、和食顧問、飯塚副会長、河西事務局長と太田で出席して参りました。懇親会に先立って開催された会員公開講演会は、今回の民法改正に携われた本学法科大学院教授・弁護士の高須順一先生による「超簡単解説・相続法改正」で昨今話題のテーマを非常に分かりやすく説明し

ていただきました。懇親会では、法政大学キャリアセンターエクステンションカレッジの佛坂公子課長より、本学の会計教育の現状の紹介があり、来賓の友好各大学10校の税理士会の代表より各大学における会計教育の実状の挨拶がありました。AIの登場により、将来の職業会計人の在り方も話題になっていました。

法政大学法曹会

太田荘一(昭和52年卒)

令和元年10月8日、アルカディア市ヶ谷で行われた法政大学法曹会と法科大学院共催の司法試験合格祝賀会に出席して参りました。今年度の本学出身の司法試験合格者は16名ということで、昨年度を大きく下回りましたが、これは一時的なものであり、来年度以降は、法学部と法科大学院の連携による法曹人育成の一貫教育が実を結び、合格者が再び増加することが見込まれる

とのことでした。昨今、法科大学院は一部の著名な大学でも募集停止や閉校されていますが、法政大学法科大学院は大いに存在の価値があるということです。我が公認会計士の教育機関である会計大学院も本学では閉校して久しいですが、是非何らかの形で、より専門性のある職業会計人育成機関が求められるところかと思えます。

全国大会会計人会サミット

越智一成(平成7年卒)

令和元年11月30日(土曜日)、横浜ランドマークタワーにて開催された、第23回全国大会会計人会サミットへ、渥美副会長、河西事務局長と私の3名で参加しました。今年度は、横浜国立大学が幹事校となり、「AI時代における会計・税務・監査の未来」というテーマで、東京大学大学院の中里実教授、ビジネス・ブレイン税理士事務所の畑中孝介所長、日本公認会計士協会・IT委員会の小池聖一・パウロ副委員長より、講演が行われました。現状では、会計・税務・監査分野でのAIやディープラーニングの利用は限定的で、解説された事例のほとんどは単純なIT

化・電子化事例であり、まだまだAI導入には課題が多く実用化には至っていないという事を認識しました。写真は、懇親会の冒頭でご挨拶された横浜国立大学学長 長谷部勇一様で、サミット当日の11月30日より念願の相模鉄道のJR乗入が開始され「羽沢横浜国大駅」が新駅として誕生した日に今回のサミットを迎えられたいへん嬉しく感じているなど、気持ちのこもったご挨拶をされていました。



公認会計士法友会事務局
〒169-0074

東京都新宿区北新宿4-19-15 正和ハイツ

E-mail: hosei.hoyukai@gmail.com

母校の発展と後進育成への貢献を
目指して活動しています。

11月末現在の会員数 738名

ホームページもご覧下さい。
<http://hoyukai.la.coocan.jp/>



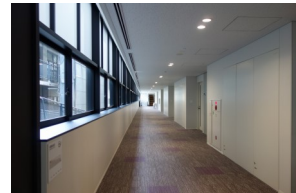
編集後記

この号がお手元に届くころには第96回箱根駅伝の結果がでていますね。昨年に引き続きシードを確保しつつ、順位を上げて欲しいと思います。今年も応援に行こうと思います。

さて、令和2年1月25日に公認会計士試験合格祝賀会が開催されます。令和最初の祝賀会です。ぜひ、ご参加をお願いいたします。

がらっと話題は変わりますが、皆さん、大内山校舎を見ましたか？55年館・56年館は、ほぼ取り壊されており、その後ろに

大内山校舎という新しい校舎が出来、すでに使用が開始されています。後者のデザインは、55年館・56年館を踏襲していますので、懐かしくもあり、新しくもあり、という感じです。合格祝賀会に参加するついでに、足を踏み入れてみてはどうでしょうか。



物故者について

今年度において、下記の会員の方が永眠されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

故 渡部 和俊

令和元年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日) 年度会費及び寄付金のご協力のお願い

法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金で賄われておりますが、合格祝賀会などの行事開催費、通信費などの運営諸経費、友好他大会計士会団体への参加費等の支出、また最近では、法政大学の公認会計士試験現役受験生の合格を支援する「奨学支援金」の原資として経常的な資金が必要であり、会員各位のご理解とご協力なくしては、持続的な活動が出来ません。

最近、会費及び寄付金を納めていただける方が固定化し、また、減少傾向にあります。一方、会員の増加で定期総会や合格祝賀会のご案内にかかる通信費の増大や「奨学支援金」の拡充等も必要となっております。会員の皆様のご理解とご協力を強くお願いする次第です。

今年度(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)会費の納入と寄付金のお願いをさせていただきます。郵便振替口座振込用紙を同封させていただきます。

昨年の11月に「法政大学校友会」の終身会員追加登録のための寄付のお願いとして、会員の皆様をお願いさせていただきました『校友会寄付金』につきましては、おかげさまで多数の会員の方々からご賛同をいただきました。既に浄財のご支援をいただいた会員の皆様には厚く御礼を申し上げます。

引き続き、『校友会寄付金』へのご協力をお願いすることといたす存じます。なにとぞ趣旨をご理解、ご賛同をいただき、ご支援をいただければ幸いです。

毎年の年度会費及び年度寄付金に、『校友会寄付金』も合わせてということでは負担が重いというご意見や、いったいいくら納入すればよいのか分からないなどのご意見・質問が寄せられます。法友会活動は会員の皆様からの会費及び寄付金の納入で支えられていますが、皆様に大きな負担を感じさせるのは本意ではありません。あくまでも会員の皆様のご厚意をお願いするものであります。

年度会費を納入されていない方につきましては、年度会費の5,000円だけでも結構ですし、このたびの『校友会寄付金』の10,000円(一口)だけを納入していただいても結構です。

もし、ご賛同をいただけるのであれば、年度会費と校友会寄付金を合わせて15,000円を納入していただければ、大変、助かります。

振込先を記入した郵便振替口座用紙を同封させていただきましたが、銀行振込をされる場合は下記の口座をお願いいたします。

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 東中野支店(店番152)

普通預金・口座番号 1559256 口座名・公認会計士法友会

<連絡先> 〒169-0074 東京都新宿区北新宿4-19-15 正和ハイツ

公認会計士法友会事務局

080-8886-0375 / hosei.hoyukai@gmail.com

Books!

書籍の出版情報を事務局までお寄せください。会報に掲載いたします。その際に、執筆者からの一言(書籍の宣伝でもOK)も併せてお願いいたします。

※書籍寄贈中止のお願い

会計大学院(イノベーション・マネジメント研究科アカウントング専攻)の廃止に伴い、書籍を開架しておく場所が無くなってしまいました。新しい場所が見つかるまで、書籍の受入は中止させていただきます。この場合でも、出版情報は引き続き掲載したいと思いますので、お寄せいただきますよう、お願いいたします。